



会報 叫び

わたしたちの行動を**催促!**

迫る水利権期限 国支援は不透明 存廃、再び焦点化



蒲島郁夫知事が存続を決めた県営荒瀬ダム (八代市坂本町)

荒瀬ダム 知事、存続表明から1年

蒲島郁夫知事が財政難を理由に、前知事の撤去方針を覆し、県営荒瀬ダム(八代市坂本町)の存続を表明して27日で丸1年。この間、県が撤去の条件として挙げた国の財政支援に理解を示してきた民主党が政権を獲得。八代市でもダム撤去派の福島和敏市長が誕生し、同ダムの存続問題が再びクローズアップされている。だが、球磨川の水を発電に利用できる水利権の期限が来年3月末に迫っている。今のところ、撤去のめどは立っておらず、地元はいら立ちを募らせている。

「衆院選前と比べて腰を示してほしい」と述べ、国が支援策を打ち出さな事を27日、財政支援に動いた場合、1月中旬にダム存続を見せない政府や民主党を最終決定し、国に水党への不満をあらわにし、水利権の更新を申請する考た。その上で、知事は「来えをあらためて示した。年1月初旬までに方向性 荒瀬ダムは2002年

に地元の要望などを受け、当時の潮谷義子知事が撤去を決めた。ところが、蒲島知事は昨年11月、「巨額の資金が必要」として存続へと方針転換。一方で、蒲島知事は「ダムによる発電事業を未来永劫続けることが最善とは考えていない」とも述べ、国の支援など条件を整え、将来は撤去もあり得る考えもにじませた。

民主党は昨年7月、当時の菅直人代表代行(現副総理)が荒瀬ダムを視察し「撤去費はある程度(国が)負担するべきだ」と発言。政権交代後、蒲島知事は「撤去を求める地元の期待が高まっている」として前原誠司国土交通相らに支援を要請したが、前向きな回答は得られていない。

地元の住民はそんな知事に冷ややかだ。旧坂本村の木村征男・元村長は「撤去は県と住民との約束。知事は国に責任を転嫁している」と批判する。

県は2003年、ダム撤去を前提に7年間の水利権更新をした。木村元村長は「ダムを撤去するために、あの更新に同意した。今になって再び更新することは認められない」としており、福島市長も同様の考えだ。

県企業局は国の支援がなければ、地元の理解を得られなくても、水利権更新の手続きに入る方針で、その場合、住民や漁業者の反発が強まりそう

マスコミは盛んにわたしたち坂本に、「坂本はどうした! 八代も熊本も人吉も天草も、あんなに動いているではないか ガンバレ!」と、もつと積極的な行動を催促しています。それは、集会終了後には必ず坂本の誰かにインタビュースマッシュし、各新聞の面積に差異はありますが、特集を組むなど記事の取り扱いが第三者的でなく好意的です。どうでしょう、催促していると捉えることはできませんか?

11・28 / 09
西日本

書き損じはがきを集めてます → 坂本の叫びを知事に届けます

わたしたちの行動のひとつとして、「蒲島知事へはがきを出そう!」という運動を思い立ちました。丁度年賀はがきの時季ではあるし、書き損じはがきを寄付していただき、それを郵便局で新品と交換して、知事宛の文章を印刷します。文章の趣旨に賛同くださる方に、住所氏名を署名していただき投函する。という手順です。<もちろん未使用はがき大歓迎 500枚いや300枚は出したいなあ 5日現在14枚> はがきは本田商店等役員宅にお届けください。次号で届け先個人宅を増やしてお知らせします。

早期撤去を

八代の地元住民 県に申し入れ

県営荒瀬ダム(八代市坂本町)の撤去を求める地元住民たちが18日、県企業局を訪れ、昨年11月に蒲島郁夫知事が表明した同ダム存続方針の撤回などを申し入れた。

要望したのは、同市で14日にあった「川辺川ダム中止・荒瀬ダム撤去を実現する県民大会」の木村征男実行委員長(元坂本村長)ら9人。荒瀬ダム撤去などを求める集会宣言とともに、来年3月に期限が切れる同ダムの水利権について、住民意思を無視した更新手続きを行わないよう求める要請書を出した。

川口弘幸・県企業局長は「現状では存続方針は変わらない」と強調。水利権更新については「国に現在、ダム撤去費の支援要請を行っている。状況を見極めたい」とし、2010年度政府予算案に撤去費の助成措置が盛り込まれるかを見極め、申請するかどうかを最終判断する考えを示した。